
2021年2月期第3四半期決算

<参考資料>

2020年 12月28日

くらしの「あたらしい幸せ」を発明する。



J. FRONT RETAILING

2020年度3Q 連結業績(IFRS)

- ▶ 百貨店は緩やかな回復続くも、新型コロナ感染第3波の影響などにより足踏み
- ▶ 百貨店のマイナスをパルコ事業、不動産事業等でカバーし3Q単独で黒字計上
- ▶ 百貨店売上は依然不透明もコスト削減徹底、またパルコ事業ほかグループでの業績改善を見込み、通期の10月予想数値を据置き

(単位:百万円、%)

2021年2月期	3Q (9-11月度)			3Q累計 (3-11月度)		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	212,760	△81,798	△27.8	532,350	△308,050	△36.7
売上収益	83,228	△52,874	△38.8	230,699	△131,068	△36.2
売上総利益	37,398	△13,056	△25.9	96,849	△58,264	△37.6
販売管理費	35,758	△830	△2.3	94,959	△22,544	△19.2
事業利益	1,640	△12,226	△88.2	1,890	△35,720	△95.0
その他の営業収益	1,179	△2,416	△67.2	4,871	△2,821	△36.7
その他の営業費用	666	△4,927	△88.1	25,246	16,987	205.7
営業利益	2,153	△9,714	△81.9	△18,483	△55,525	—
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	679	△5,950	△89.8	△15,632	△36,629	—

- ▶ 百貨店事業は国内富裕層中心に高額品回復顕著も、ボリューム苦戦が継続
- ▶ パルコ事業は心齋橋北館資産受入や心齋橋PARCO開業に伴う費用増も黒字確保
- ▶ 不動産事業は売上減に伴う歩合賃料減少等の影響はあるものの黒字確保
- ▶ クレジット金融事業は年会費計上方法の変更や新カード先行費用増で営業損失
- ▶ その他はJ.フロント建装で前年にあった心齋橋店改装工事特需の反動減影響大

(単位:百万円、%)

2021年2月期 3Q(9-11月度)	事業利益			営業利益		
	実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率
百貨店事業	△942	△9,135	—	△729	△4,181	—
パルコ事業	917	△1,165	△55.9	1,025	△3,239	△76.0
不動産事業	1,121	△451	△28.7	962	△498	△34.0
クレジット金融事業	△17	△826	—	△0	△816	—
その他	761	△998	△56.7	1,003	△1,206	△54.6
調整額	△200	351	—	△108	227	—
合計	1,640	△12,226	△88.2	2,153	△9,714	△81.9

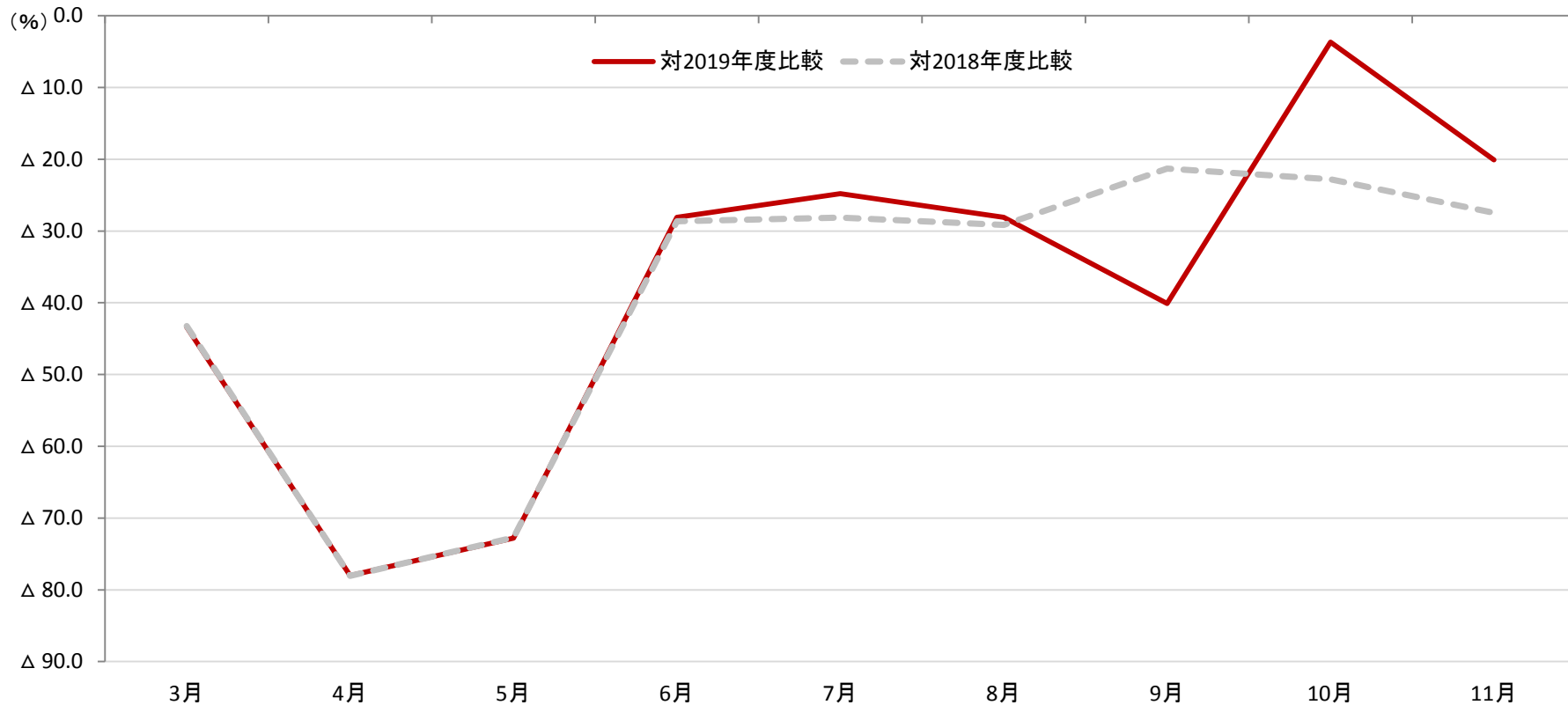
- ▶ 百貨店売上高は11月度の高気温や感染第3波の影響などにより後半減速
- ▶ 不動産は上野FTやBINOなど32物件のパルコへの不動産事業移管が影響
- ▶ 大丸松坂屋百貨店合計として3Q単独で事業利益、営業利益ともに黒字確保

(単位:百万円、%)

2021年2月期 3Q(9-11月度)	百貨店事業			不動産事業			大丸松坂屋百貨店合計		
	実績	対前年		実績	対前年		実績	対前年	
		増減高	増減率		増減高	増減率		増減高	増減率
総額売上高	117,556	△35,598	△23.2	2,724	△1,717	△38.7	120,239	△37,295	△23.7
売上収益	38,253	△16,895	△30.6	2,724	△1,722	△38.7	40,935	△18,598	△31.2
売上総利益	24,680	△8,540	△25.7	1,096	△1,053	△49.0	25,736	△9,572	△27.1
販売管理費	25,330	96	0.4	291	△285	△49.4	25,581	△169	△0.7
事業利益	△650	△8,635	—	805	△767	△48.8	154	△9,404	△98.4
その他の営業収益	202	△17	△8.0	117	△758	△86.6	319	△776	△70.8
その他の営業費用	115	△4,763	△97.6	111	△877	△88.8	226	△5,640	△96.1
営業利益	△563	△3,890	—	811	△649	△44.4	247	△4,540	△94.8

- ▶ 3Q単独(9-11月度)で対前年 $\Delta 23.2\%$ 、対前々年 $\Delta 24.1\%$ とやや足踏み状況
- ▶ 国内富裕層(外商)は高額品中心に堅調、3Q単独特選 $+6.5\%$ 、美術 $+9.3\%$
- ▶ 一方、インバウンド売上は3Q単独 $\Delta 96.6\%$ 、ほぼ消失した状態が依然継続

2020年度 大丸松坂屋百貨店全店ベース
月次売上高推移(対前年増減率)



百貨店主要店舗別売上推移

- ▶ 京都店、神戸店、名古屋店など固定顧客の比率が高い店舗は比較的改善傾向
- ▶ 東京店、梅田店など鉄道乗降顧客やオフィス出勤者の減少などの影響が継続
- ▶ インバウンド売上比率の高い心齋橋店、札幌店など厳しさ継続するも、心齋橋店はラグジュアリーブティックのオープンや心齋橋PARCO開業効果により基調改善

(対前年増減率、%)

2021年2月期	1Q実績 (3-5月度)	2Q実績 (6-8月度)	3Q実績 (9-11月度)	3Q累計実績 (3-11月度)
心齋橋店	△79.9	△52.2	△39.7	△57.9
梅田店	△72.6	△28.3	△31.5	△44.1
東京店	△76.0	△48.1	△39.0	△54.7
京都店	△58.9	△24.4	△19.6	△34.1
神戸店	△63.4	△10.5	△9.5	△27.8
札幌店	△66.4	△25.8	△25.7	△39.4
名古屋店	△58.7	△17.9	△17.1	△30.8
直営計	△64.1	△26.9	△23.2	△38.2

- ▶ 前年の退職給付制度改定に伴う人件費△41億円減の反動による増加要素あり
- ▶ 一方で、投資抑制による減価償却費圧縮をはじめ、広告宣伝費、業務委託費、旅費交通費などあらゆる費目を見直し

(単位:百万円)

項目	2021年2月期 3Q (9-11月度)	対前年 増減高	主な増減要因
人件費	5,426	3,266	前年退職給付制度改定に伴う退職給付費用△41億円減少の反動増
広告宣伝費	2,086	△878	売上減に伴う経費削減策
賃借料	26	△32	不動産事業のパルコへの移管に伴う社内賃借料減少
減価償却費	5,398	△451	投資抑制および不動産事業のパルコへの移管に伴う減少
作業費	2,755	△268	電算費の減少
その他	9,538	△1,667	手数料、業務委託費、消耗品費、旅費交通費などの減少
販管費合計	25,581	△169	

11/20オープン「心齋橋PARCO」の状況

- ▶ コロナ感染第3波のタイミングでの開業となるも、売上は想定目標を上回って進捗
- ▶ 1、2F「ラグジュアリー」「モード」、6F「ジャパンカルチャー」フロア等が特に好調
- ▶ 隣接する「大丸心齋橋店」で若年層の買上げが増加するなど相乗効果も創出



心齋橋 PARCO



TM & © TOHO CO., LTD.

Website

<https://www.j-front-retailing.com>

くらしの
「あたらしい幸せ」を
発明する。



J. FRONT RETAILING

本資料における業績予測や将来の予測に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されております。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は、見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。